

借金1105兆円を次世代に押し付け

COLUMN
県内
大学発
経世済民

683

【川口家の家計】川口家の今年の家計は収入700万円に対し支出は1130万円(内ローンを返済に270万円)の見込み。「川口家を「日本国」に読み替える。川口家は(収入へ支出)の生活の過去59年間続けてきた。借金残高は1億1050万円に達している。借金はつど一部返済を行い、完済は60年後の2084年。川口家は5人家族で祖父・祖母は高齢者、父・母も定年が近い。1億円超の借金と利息は学生の長女(と将来の長女の子供、孫)が返済していくことになる。川口家は(収入へ支出

の生活を改める気はないので、借金残高は今後さらに増えていく。とんでもない家計である。「川口家を「日本国」に読み替え、金額単位を「万円」から「兆円」に転換すると、令和6年度の日本国の財政の数値になる。【財政のキャッシュフロー】令和6年度一般予算の歳入・歳出は113兆円。歳入の内訳は税金70兆円(62%)、国債発行(借金)35兆円(31%)、その他8兆円(7%)。歳出113兆円は国が令和6年度に使った金額。内訳は借金返済27兆円(24%)、地方交付税18兆円(16%)、

埼玉学園大 福永肇

経済経営学部教授



ふくなが・はじめ 1955年生まれ、神戸大学経済学部卒、埼玉大学大学院修了、神戸大学大学院単位取得満期退学。国際医療福祉大学助教授、藤田医科大学教授、金城大学教授を経て2021年から現職。専門はファイナンス論、病院経営論、医学史。主な単著に「日本病院史」「病院ファイナンス」「世界の病院から」など。

年以降すつと、税収で不足する金を借金(国債発行)で賄ってきた。それが積もって国債残高(国の借金額)は令和6年度末に1105兆円。国の借金を返済するのは国民。借金残高は国民1人当たり約900万円、43兆円(37%)。最初の4項目で税収と同額の70兆円が消える。国とは防衛、外交、教育、科学技術振興、公共事業、持続可能な開発目標(SDGs)などを担う機関のように思えるが、それらに使われている金額割合は低い。歳出113兆円に対し、収入は税収70兆円とその他8兆円しか見込めない。35兆円が不足する。そこで国債を35兆円発行する。本来は35兆円の支出を削減すべきである。【財政のストック面】昭和40年代に押し付ける。日本はこれで良いのか。収入に見合う支出の社会に変革しなければならない。国の4大支出は①借金返済②地方交付税③年金支援④医療支援である。①の削減は無理。では②④のどれを、いつ、どれだけ削減するのか。国の収入は税金である。主な税は消費税、所得税、法人税。税負担増は国民の誰もが好きまない。しかし次世代へのツケ回避には、増税も必須である。「収入＝支出」になっても、今までの借金1105兆円とその利息がある。大変な状況である。また生まれて来てもいない次世代に私たちの世代の借金を背負わせるのはあまりに酷だ。次世代への責任がある。財政赤字は「やがて何とかなる」ことはない。もう先送りをしてはいけない。